

感震ブレーカー等のタイプ別の特徴

※下記は一般的な特徴・注意点ですので、機器により異なる場合があります。

	分電盤タイプ (内蔵型)	分電盤タイプ (後付型)	コンセントタイプ	簡易タイプ
機器概要	 <p>分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断。</p>	 <p>分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能。</p>	 <p>コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断。</p>	 <p>ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断。</p>
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 感震性能が高く、専門工事業者による設置のため、作動の信頼性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 設置方法による作動の信頼性のばらつきが小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 設置方法による作動の信頼性のばらつきが小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ユーザー自ら取付けるため、設置方法に伴う作動の信頼性にばらつきが生じるおそれがある。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 感震後、通电の遮断までに一定の待機時間（3分程度）が設定されており、その間は照明が確保される。 ※待機時間中に発生する火災は予防できない。待機時間は変更可能。 ● 待機時間後には、建物全体にわたり通电が遮断されることから、在宅用医療機器等を設置している場合、停電に対処できるようバッテリー等を備えることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 作動時においても未設置のコンセントへの通电は確保されることから、通电の遮断に伴う避難等の支障は小さい。 ※コンセント以外の配線、コンセントまでの屋内配線及び未設置のコンセントで発生する火災は予防できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 作動すると通电が一斉に遮断されることから、別途、避難用の照明等の確保が必要。 ● 在宅用医療用機器を設置している場合、停電に対処できるようバッテリー等を備えることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電気工事不要。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 電気工事が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電気工事が不要なタイプ（コンセント差込型）と必要なタイプ（コンセント埋込型）の両者がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電気製品の種別、レイアウトの変更等に応じた効果的な設置、継続的な対応が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既設分電盤の形状によっては、取付け困難な場合がある。
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ● 感震ブレーカー等の設置の有無に関わらず、地震発生後に自宅から避難する際にはブレーカーを切ることも重要です。 ● 復電する場合には、事前にガス漏れ等がないことの確認や、電気製品の安全の確認が必要です。 ● 夜間等に大規模な地震が発生し、感震ブレーカー等が作動した場合、避難時の照明が確保できない可能性がありますので、一般的な防災対策としても、停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備してください。 ● 感震ブレーカー等の設置場所における揺れは、住宅の構造や耐震・免震機能、階層、設置される壁の剛性や開口部の場所等によっても大きく異なります。このため、実際の地震時における感震ブレーカー等の作動は、必ずしも各地の計測震度分布と同等に作動するものではなく、それぞれの家屋の特性等に応じて、屋内において家具の転倒等が生じる程度の大きな揺れが発生した場合に、電熱器具等への通电が遮断されることを期待するものである点について、設置者における理解と周知を図る必要があります。 			